

1. 個人評価の実施状況

1) 対象教員数、実施者数、実施率

対象教員数(人)	実施者数(人)	実施率 (%)
2	2	100

2) 点検・評価項目および評価の基準

- ① 点検・評価は、教育、研究、国際交流・社会貢献及び組織運営の領域ごとに、個人の活動実績及び改善に向けた取り組みについて行う。
- ② 各教員は、各自の個性を生かす評価を行うため、自己の職種、職務、能力、関心等を勘案して、各評価領域における達成目標をあらかじめ設定された目標について申告する。
- ③ 達成目標の設定は、別に定める「産学・地域連携機構における個人達成目標の指針(以下「指針」と言う。)」に基づき行う。

添付資料：

- ① 機構における個人達成目標の指針(別紙様式)

3) 教員個人の評価の実施概要

評価組織	産学・地域連携機構 個人評価専門委員会
構成	中島 晃 (佐賀大学理事・副学長／機構長)
	佐藤三郎 (産学・地域連携機構教授／副機構長)
	大和武彦 (工学系研究科教授／産学連携部門長 (兼任))
	五十嵐勉 (全学教育機構教授／地域連携部門長(兼任))
	大渡啓介 (工学系研究科教授／知財戦略・技術移転部門長(兼任))

実施内容と方法：

- (1) 各教員は、毎年7月末までに個人目標申告書(別紙様式1)を作成し、機構長に提出する。
- (2) 各教員は、毎年7月末までに前年度の活動実績報告書(別紙様式1)及び自己点検・評価書(別紙様式1)を作成し、機構長に提出する。
- (3) 評価委員会は、各教員の個人目標申告書、活動実績報告書及び自己点検・評価書に基づいて、本学及び機構長の目標達成に向けた活動の観点から審査し、これらを基に評価を行う。また、評価実施委員会は、必要に応じ、評価内容について、当該教員から意見を聴取することができる。
- (4) 領域別評価及び総合評価は、指針に定める方針により行う。
- (5) 機構長は、自己点検・評価書に評価結果を記入した個人評価結果(別紙様式2)を当該教員に封書で通知する。
- (6) 各教員は、個人評価の結果に対して異議のある場合は、通知後2週間以内に異議申立書(任

意様式)を機構長に提出することができる。この場合に於いて、評価実施委員会は、当該教員から意見を聴取する機会を設けるものとする。

- (7) 評価実施委員会は、異議申立書を提出した意見を聴取の上、必要と認められるときは、再審査・評価を行う。再審査に対し、評価実施委員会は、先行する審査に際して意見を求めた教員以外に、必要と認められる者から意見を求めなければならない。
- (8) 再審査・評価の結果は、機構長から当該教員に封書で通知する。
- (9) 評価実施委員会は、個人評価結果の総合的分析を行い、機構長は、その結果を毎年7月末までに大学に報告する。

添付資料：

- ②個人目標申告・活動実績報告・自己点検・評価書(別紙様式1)
- ③個人評価結果(別紙様式4)

2. 評価領域別の集計・分析と自己点検評価

1) 教育に関する評価

① 教養教育

1名の教員は、全学教育科目3科目(チャレンジ・ベンチャービジネスⅠ～Ⅲ)を担当した。

② 大学院授業担当

1名の教員は、工学系研究科の大学院授業科目(共通科目)を1科目担当した。

③ 大学院修了学生数

本年度の該当無し

④ 学生生活指導、FD活動、教育改善の取組

いずれの項目についても教員が工夫をしながら、教育効果の改善に向けて取り組み、成果を挙げている。全学教育機構や工学系研究科と研究・教育分野で連携を高めることができた。

2) 研究に関する評価

① 論文数および学会発表ほか

	総数	教員A	教員B
査読付き学術論文	2	1	1
その他の論文	4	1	3
著書等	1	0	1
科研費(研究代表)	0	0	0
科研費(分担)	2	1	1
共同研究	3	3	0

専任教員の連名も含めた学術論文数を評価した。

- ② NPO 佐賀大学スーパーネット及びNPO 鳳雛塾と2件の共同研究を実施し、外部資金を獲得すると共に、本学学生のベンチャー教育及び地元小中高生のキャリア教育研究に貢献した。機能性食品開発関連(徐福ラボ)で1件の共同研究を実施した。
- ③ 科研費の分担者として学生発ベンチャーに関する研究等を行った。
- ④ 産学連携学会の正規会員及び九州支部長として、設立以来学会活動に貢献すると共に、学会発表を行った。

⑤ 佐賀大学シンクロトン光応用研究センター協力教員を務めた。

3) 国際交流・社会貢献に関する評価

- ① 国際交流の一環としてバングラディシュから教授1名を外国人研究員として2か月間招聘した。
- ② 科研費に研究代表者として1件応募したが、採択に至らなかった。分担者2件を実施した。
- ③ 2件の共同研究を実施した。
- ④ 地元企業から寄せられた課題を解決するためビジネスプランコンテストを実施した。
- ⑤ 学生のボランティア団体 NPO 佐賀大学スーパーネット(以下 SN)の理事長・顧問として学生の指導に当たった。SN は、三瀬村の限界集落に対し農作業支援や山林保護活動を実施しているほか、学内のペットボトル回収・分別活動、NPO 鳳雛塾と連携して小・中・高生のキャリア教育支援活動を行っている。
- ⑥ NPO 鳳雛塾の理事として小・中・高生のキャリア教育を支援した。
- ⑦ 佐賀県ユニセフ協会の評議員として、街頭募金活動、インクカートリッジ・ベルマークを収集しユニセフ募金に回す活動を行った。
- ⑧ 佐賀県職業能力開発審議会委員座長、佐賀県地域産業支援センター評議員、佐賀県工業技術センター評議員、佐賀県職業能力開発協会さがものづくり産学官連携会議の副委員長など行った。
- ⑨ さがのお茶活用事業や茶学会の運営に貢献した。

4) 組織運営に関する評価

- ① 毎週火曜日 9:30 より朝礼を行い、機構及び関係研協職員との意思疎通を図った。
- ② 安全衛生連絡を徹底し、職場の安全衛生に努めた。
- ③ 機構職員の働きやすい職場作りに努めた。

3. 領域別評価と総合評価

1) 領域別評価

評価領域	教員 A			教員 B			評価点 合計/教員数
	重み	評価点	得点	重み	評価点	得点	
教育	0,1	100	10	0	0	0	5
研究	0.2	100	20	0.3	100	30	25
社会貢献	0.3	90	27	0.5	90	45	36
組織運営	0.4	80	32	0,2	80	16	24
合計	1.0	360	89	1.0	270	91	90

- ① 教育：全学教育機構及び工学系研究科との連携により教育活動に貢献できる体制を取っている。
- ② 研究：工学系研究科や学内外機関との連携により共同研究や学術論文発表ができています。
- ③ 国際交流・社会貢献：NPO やビジネスプランコンテストを主催するなど十分成果を上げた。
- ④ 組織運営：朝礼を実施するなど働きやすい職場作りができています。

2) 総合評価

専任教員1名と特任教員1名の二人三脚で、教育・研究・社会貢献・組織運営を推進し、努力して

いると評価できる。しかしながら、学内全体を見渡した時、地域連携は充実してきたものの産学連携は横ばいであり、もう少し組織の活性化に取り組むべきである。